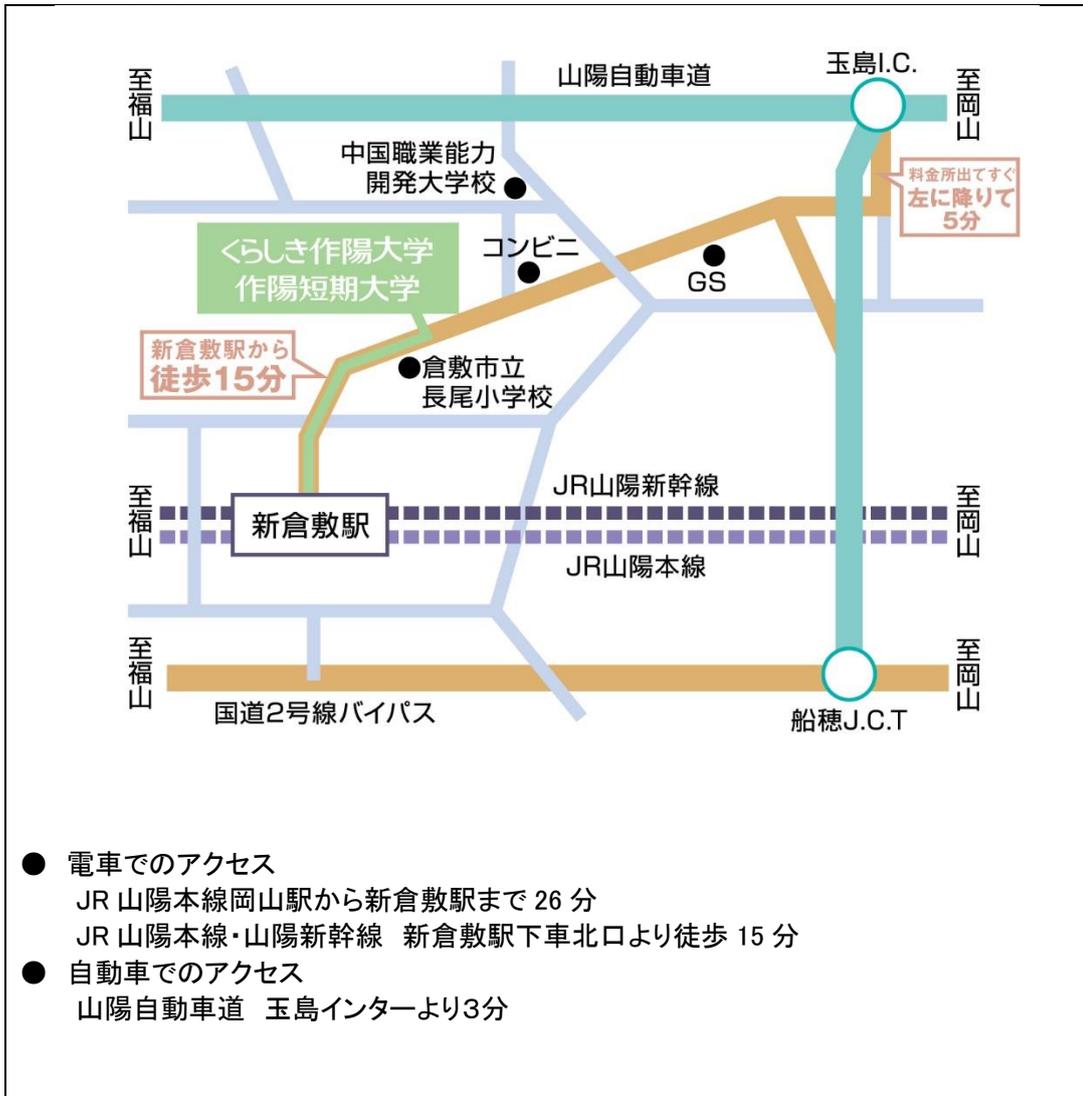


(11)くらしき作陽大学

① 開講期間・試験期間・授業時間

開講期間	前期	2024年4月8日	～	2024年7月29日
	後期	2024年9月20日	～	2025年1月20日
試験期間	前期	2024年7月30日	～	2024年8月2日
	後期	2025年1月21日	～	2025年1月24日
授業時間	1限	9:30	～	11:00
	2限	11:10	～	12:40
	3限	13:25	～	14:55
	4限	15:05	～	16:35
	5限	16:45	～	18:15

② アクセス(案内図)



③ 担当窓口

教育企画部教育支援室	
所在地:	倉敷市玉島長尾 3515
電話:	086-523-0827

④ 開講大学から単位互換履修生への連絡事項

・ 履修申込期限

本学では、申込期限は前期:3月27日(水)まで、後期:9月5日(木)までとします。

・ 履修手続

所属大学の窓口に所定の期間内に単位互換履修願(写真添付)を提出してください。
対面授業履修者は初回授業受講時に、1号館1階事務局教育支援室窓口を訪ねてください。

・ 施設利用

本学学生と同様に図書館・食堂等の施設が利用できます。

・ 特記事項

⑤ 各科目のシラバス

大学ホームページ シラバス掲載URL

<http://www.ksu.ac.jp/>
<http://unipaweb.ksu.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp>

・対面授業科目

対面授業				11001
ロシア語 I			A. オランスカヤ	
Russian Language I				
履修年次1～4	1単位	前期	1コマ	
【授業の目的】 入門、基礎レベルにおけるの活用、ロシア語能力検定、ロシア語検定の資格取得をめざす				
【授業内容】 1 挨拶、自己紹介の仕方 2 あなたは誰？これは何？返答の仕方 3 公式な場での挨拶 4 職業、専門、名刺交換 5 物語作文 6 構文：持っている(テーマ：私のもの) 7 アドレス交換の仕方 8 動詞：する、見る、読む、聞く 9 テーマ：趣味 10 テーマ：家、部屋、家具 11 テーマ：私の楽器 12 テーマ：民族料理、飲み物 13 テーマ：スタイル、流行、ドレスコード 14 テーマ：交通、動詞：定動詞／不定動詞 15 テーマ：祝日				
【テキスト】 適宜紹介する				
【参考図書】				
【成績評価の方法】 授業態度(60%)、試験(40%)				

対面授業				11002
食統計学			松本 隆行	
Statistics for Food Science				
履修年次2~4	2単位	前期	1コマ	
【授業の目的】 <ul style="list-style-type: none"> ・統計処理の重要性について理解する。 ・母集団と標本の意味を理解する。 ・基本統計量や分布について理解する。 ・データを適切に処理し、データの特徴を数値、グラフで表現できるようになる。 ・数値やグラフから、データの特徴を知ることができるようになる。 ・統計学検定により客観的判断ができるようになる。 				
【授業内容】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 全体の授業計画および受講の心構えと授業の進め方などを説明する。 2. 統計学の目的 具体的事例を通して、統計学の目的、重要性、汎用性について学ぶ。 3. データの取り扱い データの種類とその特徴、取り扱いの違いについて理解する。 4. データを記述する(1): データの特性量 データの特徴を知る上で重要となる数値、基本統計量について理解する。 5. データを記述する(2): データの視覚表現 データは、その特徴により、どのような種類に分類されるのかを理解し、適切なグラフ表現、あるいは、グラフの読み取りについて学ぶ。 6. 分布の読み取りと比較 データの特徴を知る上で重要となる分布の図式表現とその読み取りについて学ぶ。 7. 頻度と確率 統計の基礎となる、確率について理解し、様々な確率分布を学ぶ。 8. 母集団と標本 統計学の基礎となる母集団と標本の関係、および、標本抽出における注意について学ぶ。 9. 標本から全体像を推測する(1) 標本から母数を推定するための基本的考え方について学ぶ。 10. 標本から全体像を推測する(2) 確率分布を通して、事象の起こりやすさと、真偽の判定に関わる統計的仮設検定の基本的な考えか方を理解する。 11. 統計学的仮設検定(1) 標本から平均を検討する方法(t検定)について学ぶ。 12. 統計学的仮設検定(2) 分散分析(一元配置)について学ぶ。 13. 統計学的仮設検定(3) χ (カイ)二乗検定等について学ぶ。 14. 関係性の分析(1) 複数のデータ間の関係を調べる方法(相関分析)について学ぶ。 15. 関係性の分析(2) データ間に潜む関係について探る方法(回帰分析)について学ぶ。 				
【テキスト】 武藤志真子 編著:『管理栄養士・栄養士のための統計処理入門』 建帛社.				
【参考図書】 適宜提示する				
【成績評価の方法】 課題レポート 30%、課題への取り組み、姿勢 10%、小テスト 60%				
【備考】 パソコン(Microsoft Excel 2010 以上インストール済み)を使用しますので持参して下さい。				

対面授業				11003
発達障害児教育総論			東川 博昭、他	
Introduction of Education for Children with Developmental Disabilities				
履修年次 1～4	2 単位	後期	1 コマ	
<p>【授業の目的】 発達障害(自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害等)の理解と支援のあり方について詳説する。特別支援学校教諭としての基礎知識とともに、特別支援学級や通常学級の担当教諭として発達障害の子ども達への理解と支援について学ぶ授業である</p>				
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「発達障害児教育総論」の概要 2 自閉症(1)その歴史的理解と定義 3 自閉症(2)知的発達・言語発達 4 自閉症(3)社会性の障害 5 自閉症(4)コミュニケーションの障害、想像力の障害 6 自閉症(5)教育現場における支援、小テスト 7 学習障害(1)その歴史的理解と定義 8 学習障害(2)中心障害 9 学習障害(3)中心障害と併存障害 10 学習障害(4)教育現場における支援、小テスト 11 注意欠陥多動性障害(1)その歴史的理解と定義 12 注意欠陥多動性障害(2)注意欠陥障害 13 注意欠陥多動性障害(3)衝動性と多動性 14 学習障害(4)教育現場における支援、小テスト 15 まとめ 				
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』,海文堂出版 ・ 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)』,開隆堂出版 ・ 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』,開隆堂出版 ・ 『よくわかる発達障害[第2版]』,ミネルヴァ書房 ・ 『気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンジングサポートのすすめ～』,社会福祉法人全国心身障害児福祉財団 ・ 別途資料を配布する。 				
<p>【参考図書】</p>				
<p>【成績評価の方法】 学期末テスト(80%)、レポート(10%)、授業への参加度(10%)</p>				

対面授業				11004
吹奏楽の歴史と魅力			長瀬 敏和、菅付 章宏	
The history and charm of brass bands				
履修年次 2～4	2 単位	前期	1 コマ	
<p>【授業の目的】 吹奏楽活動の実際を、視聴覚機器等を通して紹介し、芸術的価値及び教育的価値を学ぶ。また、吹奏楽の編成楽器を個別に聴いたり演奏したりするなど体験的に学ぶ。さらに、吹奏楽の歴史にも触れ、吹奏楽の基礎を多角的に学ぶ。</p>				
<p>【授業内容】 1 私と吹奏楽(または音楽)個人の吹奏楽(音楽)との出会いを発表 2 吹奏楽の歴史と現在 3 マーチの魅力 4 吹奏楽の魅力 5 楽器の知識(木管) 6 楽器の知識(金管) 7 楽器の知識(打楽器) 8 移調楽器の取り扱い—基礎 9 移調楽器の取り扱い—応用 10 吹奏楽、アンサンブル編曲法—基礎編 11 吹奏楽、アンサンブル編曲法—応用編 12 演奏会企画の立て方、選曲について 13 合奏教本の選び方と使用方法 14 指揮法の基礎 15 総括</p>				
<p>【テキスト】 プリント(授業で提供する)</p>				
<p>【参考図書】 なし</p>				
<p>【成績評価の方法】 (1)レポート(30%)(2)小テスト(30%)(3)授業への参加度・発言の積極性(40%)</p>				

対面授業				11005	
吹奏楽I			長瀬 敏和、他		
Brass bands I					
履修年次 1~4	2 単位	前期	2 コマ		
<p>【授業の目的】 吹奏楽マスターピースや編曲作品、最新作品などを取り上げる。それぞれの作品の時代背景などを考察し、より深く作品を理解できるよう配慮する。マーチング・バンド「ムジカ」と合同で研究の成果を発表し、演奏会実施においての総合マネジメント力が学べるようにする。</p>					
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業実施のための環境整備 2 世界のマーチ(基礎)楽曲分析、演奏スタイルを理解 3 世界のマーチ(応用)楽曲分析に基づく表現を研究 4 世界のマーチ(発展)表現の可能性を探求 5 世界のマーチ(まとめ)、研究発表会の企画・立案 6 マスターピース～ヨーロッパ楽曲の全体像を把握 7 マスターピース～ヨーロッパ(基礎)楽曲分析、演奏スタイルを理解 8 マスターピース～ヨーロッパ(応用)楽曲分析に基づく表現を研究 9 マスターピース～ヨーロッパ(発展)表現の可能性を探求 10 マスターピース～ヨーロッパ(まとめ)2. 研究発表会の演奏曲決定 11 マスターピース～アメリカ楽曲の全体像を把握 12 マスターピース～アメリカ(基礎)楽曲分析、演奏スタイルを理解 13 マスターピース～アメリカ(応用)楽曲分析に基づく表現を研究 14 マスターピース～アメリカ(発展)表現の可能性を探求 15 マスターピース～アメリカ(まとめ)2. 研究発表会へ向けてのスケジュール決定 					
<p>【テキスト】 必要な時に担当者より指示、配布する。</p>					
<p>【参考図書】 なし</p>					
<p>【成績評価の方法】 研究発表会の演奏成果、積極性、協調性(40%)授業への取り組み、向上のための努力(30%)全体運営への貢献度(30%)</p>					

対面授業				11006	
吹奏楽Ⅱ			長瀬 敏和、他		
Brass bands Ⅱ					
履修年次 1～4	2 単位	後期	2 コマ		
<p>【授業の目的】 吹奏楽マスターピースや編曲作品、最新作品などを取り上げる。それぞれの作品の時代背景などを考察し、より深く作品を理解できるよう配慮する。マーチング・バンド「ムジカ」と合同で研究の成果を発表し、演奏会実施においての総合マネジメント力が学べるようにする。</p>					
<p>【授業内容】 1 ガイダンス、研究発表会マネジメントの確認、研究発表会プログラムの練習楽曲の全体像を把握 2 研究発表会プログラムの練習(基礎)楽曲分析、演奏スタイルの理解 3 研究発表会プログラムの練習(基礎)木管、金管打楽器、分奏 4 研究発表会プログラムの練習(応用)楽曲分析に基づく表現の研究 5 研究発表会プログラムの練習(応用)木管、金管打楽器、分奏 6 研究発表会プログラムの練習(発展)表現の可能性を探求 7 研究発表会プログラムの練習(発展)木管、金管打楽器、分奏 8 研究発表会プログラムの強化練習(定着)前半プログラム、合奏 9 研究発表会プログラムの強化練習(定着)後半プログラム、合奏 10 研究発表会プログラムの強化練習(定着)後半プログラム、合奏 11 研究発表会プログラムの強化練習(定着)後半プログラム、分奏 12 研究発表会プログラムの強化練習(定着)全体プログラム、合奏および分奏 13 研究発表会プログラムの強化練習(定着)ランスルー、確認・修正 14 研究発表会(実践) 15 1年間の振り返り(まとめ)</p>					
<p>【テキスト】 必要な時に担当者より指示、配布する。</p>					
<p>【参考図書】 なし</p>					
<p>【成績評価の方法】 研究発表会の演奏成果、積極性、協調性(40%)授業への取り組み、向上のための努力(30%)全体運営への貢献度(30%)</p>					

対面授業				11007
和声学I			米倉 由起	
Harmony I				
履修年次 1~4	1 単位	前期	1 コマ	
<p>【授業の目的】 「和声」は西洋音楽を理解する上で欠くことができない基礎知識です。演奏する上でも、作品を分析する上でも、曲を書く上でも、まずはじめに学習する領域とっていいでしょう。「和声学 I」では基本となる主和音、下屬和音、屬和音、II の和音、VI の和音の配置や連結に際しての様々な約束事を四声体の実習を通じて学習します。</p>				
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容のガイダンスと和声学の予備知識の解説 2 密集配分 3 開離配分 4 基本形連結 5 共通音のない場合の連結 6 II~V 7 V~VI 8 禁則① 9 禁則② 10 Cdur 以外の課題 11 Cdur 以外の課題 12 第1転回形 13 第1転回形 14 既習範囲のまとめ 15 既習範囲のまとめ 				
<p>【テキスト】 和声 理論と実習 I 音楽の友社</p>				
<p>【参考図書】 特になし</p>				
<p>【成績評価の方法】 提出課題(20%)試験(80%)</p>				

* 学生は太枠内のみ記入

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

くらしき作陽大学長 殿

提出日	年	月	日
ふりがな			
氏 名			印



この度、貴学において単位互換履修生として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学等					
学部・学科・学年	学部		学科		年
学生番号	性別	生年 月 日	西暦 年		
			昭和・平成	年	月 日
現住所	〒 — Tel () —				

* 履修受付締切日：前期は3月27日(水)まで 後期は9月5日(木)まで

* 区分(教養/専門)：開講大学の区分を示しています。受講生の所属大学における区分については、申込みの際に所属大学で確認してください。

No	授 業 科 目	区 分	担当教員	単 位	開講 期	配当 学年	備 考	曜日・時限	履修 希望	評価
対面授業科目										
11001	ロシア語 I	教養	A.オランスカヤ	1	前期	1~4	曜日・時間については変更する場合がありますので、事前に開講大学までお問い合わせください。	水 11:10~12:40		
11002	食統計学	教養	松本 隆行	2	前期	2~4		木 9:30~11:00		
11003	発達障害児教育総論	専門	東川 博昭 他	2	後期	1~4		木 15:05~16:35		
11004	吹奏楽の歴史と魅力	専門	長瀬 敏和、 菅付 章宏	2	前期	2~4		月 9:30~11:00		
11005	吹奏楽I	専門	長瀬 敏和 他	2	前期	1~4		木 15:05~18:15		
11006	吹奏楽 II	専門	長瀬 敏和 他	2	後期	1~4		木 15:05~18:15		
11007	和声学I	専門	米倉 由起	1	前期	1~4		月 13:25~14:55		

写真提出枚数 (カラー, 4 cm × 3 cm, 裏面に大学名・氏名を記入する)	身分証明書用	学生原簿用	計
	1 枚	1 枚	2 枚